

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮幹雄	法人・事業所の特徴	坂井市の北部ののどかな田園地域に立地しており、同敷地内に通所介護・認知症対応型通所介護・認知症対応型共同生活介護を併設しています。 県民せいきょうの理念「あなたらしいいつまでも」を念頭に置き、事業所独自として「えがお」という理念を掲げています。利用者だけでなく、家族、もちろん職員も笑顔でいられたらいいねという思いです。坂井きらめきでは、通いサービスが中心ですが、訪問を頻回に行う事で一人暮らしの方のサポートをしたり、宿泊を組み入れることで家族の介護負担を軽減できる様に心がけています。地域とのつながりを大切に、気軽に困りごとを相談しに来て頂けるような事業所を目指します。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能型ホーム 坂井きらめきハウス	管理者	長谷川典子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	2人	1人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	畑作業を継続し、やりがいや自信へと繋げその人らしい過ごし方をサポートしていきます。 ICT化を進め、業務の効率化を図る事でご利用者との関わりの時間を大切にします。 担当職員が中心となり、「～したい」の実現に向けてアイデアを出し合い計画していきます。	畑作業は生活の一部だったご利用者も多いことから、作業工程を分けて皆さんに携わって頂けるように工夫しました。 ICT化については、日々の様子の入力移行したものの、使いこなせていない部分が多くありました。 コロナ禍の影響もありましたが、「～したい」の聞き取りや計画が不十分で実現できたものは僅かでした。	自身の想いを上手く意見できないご利用者の「～したい」を実現できるといいですね。	畑作業をきらめきでの楽しみとして定着するように継続していきます。 業務の効率化を図る為に、学び合いながら、ICT化を進めていきます。 ご利用者の生活歴を理解し「～したい」の思いを読みとります。日々の関わりから聞き取った「～したい」を共有する為にスタッフ室に掲示し担当職員が中心となって計画、実施していきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	SNSを活用し、日頃の活動の様子をご家族向けに発信していきます。 電話対応など苦手な部分の模擬練習を行い、接遇マナーを身につけ笑顔で対応します。	日々の活動や様子は送迎時などにご家族に報告していましたが、SNSを活用する事が定着しておらず、数回発信しただけになってしまいました。 施設全体で日頃の自身の接遇についての振り返りを行いました。	活動の様子を発信する事は個人情報として難しい問題もあると思います。 職員の様子をUPするのも施設がどのような活動をしているのか伝えられると思います。	SNS担当職員だけでなく、チーム全体でSNS発信する事への意識を持ちご家族や地域にきらめきでの活動を知って頂けるように取り組んでいきます。 電話や来客時など相手に好印象を与えられるように、継続してマナーを身につけていきます。

C. 事業所と地域のかかわり	サークルやサロンに出向き、介護予防体操やレクリエーションを行い交流を深め、気軽に困りごとを相談できるような関係作りに努めます。 ご利用者と一緒に地域のゴミ拾いや交通安全の啓蒙活動を行い地域との関わりを大切にします。	地域のサロンに出向いて体操や脳トレなど行う事が恒例となっており、地域の方々の楽しみの一つとなっています。	坂井老人センターで自主サークルの講師として参加してくださりありがとうございます。 コミュニティセンターへの定期的な活用など、介護についてもっともっと地域の人に見える化してください。 車椅子の方にも神社参拝して頂くなど介護を身近なものと感じられる工夫ができるといいと思います。	引き続きサロンやサークルに出向き地域の方の健康維持に繋がるように努めます。 また、困り事を気軽に相談できるように関わりを大切にします。地域の行事参加だけでなく、日常生活の中に地域との繋がりを取り入れられるよう工夫し、支援していきます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご利用者のこれまでの暮らし方を理解し、ご利用者にとっての社会資源とは何かを全職員がしっかりと理解したうえで、その人らしく在宅生活が送れるようにサポートしていきます。	ご利用者と一緒に大関コミュニティセンターのカフェスペースに出掛けました。若い頃に喫茶店通いが習慣となっていた方もいらっしゃり大変喜ばれていました。	センターが開いている時間ならいつでも自由にコーヒーを飲みに来て下さい。 地域の子供達が描いたプールの壁画もぜひ見に来て下さい。 高齢者だけでなく近所同士の繋がりもなくなってきています。どうにかなくてははいけないと考えています。	「地域の資源」とは何かを具体例を挙げ、本人の生活に必要なものを取り入れて在宅生活を支えていきます。 地域行事の情報を収集し、ご利用者と参加できるよう計画します。又、電池や電球などのリサイクル回収にも地域の一員として一緒に協力していきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員も会議に参加し、地域の方と気軽に意見交換し合える関係性作りに努めます。 ご家族への参加の案内を積極的に行っていき、ご家族と地域との交流の場となるように働きかけていきます。	新たにご利用者家族が会議に参加して下さるようになりました。会議後にご利用者の様子についても情報交換ができました。 コロナ禍の影響で開催自粛となった、職員不足も発生し、職員が会議に参加する事はできませんでした。	退所されたご家族の方が気軽に立ち寄り色々と相談していると知り、地域住民を大切にしているのだと感じました。 区として特別な取り組みは何もないのが申し訳ないです。	職員が会議に参加できるように事前に調整を行います。 会議を通してご家族・地域との交流を深め、職員が自発的に地域に出向いていけるような環境作りに努めます。
F. 事業所の防災・災害対策	定期的に災害時の備蓄の確認を行い、例年同様、日中、夜間両方を想定しての訓練を行います。	今年度の防災訓練はコロナ禍の影響で上半期は職員とご利用者のみ、下半期は、消防署の指導のもとAED講習も行われました。	AEDは施設から借りる事はできますか？ AEDが設置してある事を区民に通知しています。 大雪や大雨情報など職員同士がSNSを有効活用できるいいと思います。	定期的に災害時の備蓄の確認を行い、日中、夜間両方を想定しての訓練を行います。